

今日の黙想のてびき

週日聖書日課 ヨハネによる福音書 5：41－47
2025年4月14日(水)

◆文脈と言葉

- 主イエスのこの言葉は、ベトザタの池での癒しに続くものです。池のほとりで病気で苦しんでいた人をお癒しになったことを知った「ユダヤ人たち」はそれが安息日だったことと、ご自身を神と等しい方とされていたことで、主イエスの命を狙うようになります。
- そこで主イエスはこの人たちに対して語り始められたのです（19節～）。この「ユダヤ人たち」という言葉は、ヨハネによる福音書では象徴的な意味をもっています。ただ単にユダヤの人、ユダヤ民族を意味するのではなく、主イエスが問題になさった、信じない人たちの代表と言ってもいい表現です。
- 信じない人相手の言葉ですから厳しいものになっていますが、信仰者であるわたしたちはこのような言葉に、どうして信じることができるのか、なぜ自分は信じているのか、ということを再確認する道を見ることができるよう。

◆黙想のすじみち

(1) あらすじと説き明かし

- 神はわたしたちのうちに神への愛がないことを知っておられました。そのままでは滅びておかしくなかったのに、主イエスを通して、主イエスによって、神の愛をわたしたちに植え付けてくださいました。
- この主イエスは父なる神から遣わされた方ですから、主イエスを受け入れることが神を信じることです。たしかにわたしたちは、魅力あるこの世のいろいろなものを救いだと勘違いして受け入れてきました。けれども、主イエスが来られ、ご自分を通して父なる神をあきらかにしてくださった今は、主イエスだけを救い主として受け入れています。
- わたしたちは人からの誉を求めてしまう者でした。けれども、今は信じる者に与えられる神からの誉だけを喜びとして歩んでいます。
- ユダヤ人たちはモーセの律法を守ることが信仰だと思い、自分たちはその律法にかなっていると信じていました。けれども主イエスは、そのモーセが彼らを不信仰な者として父なる神に訴えとおっしゃいます。なぜなら、モーセが律法を通してあらわしているのは主イエスご自身だからです。
- 神の律法を恵みの生き方として受け止めることはすなわち主イエスを受け入れることであるはずですが。けれども、「ユダヤ人たち」は律法をそのように受け取ることはできていたのです。主イエスご自身にこそ、神の御心のうちに生きる道があります。わたしたちはそのことを知っています。